



Interview #5 移住者 インタビュー

きりき ひらめくみ
桐木平 愛さん

30代前半で福岡県豊前市から夫婦で山国へ移住。地域おこし協力隊で米のブランド化を担い、卒業後も農業公社に勤務。自然を愛し、ご近所さんとも仲良く、地域に溶け込み自然体で暮らす女性です。

地域おこし協力隊×農業

地域おこし協力隊として中津市に移住されていますが、実際にはどんな活動をされたのですか？

以前は豊前市で葡萄を作る施設に勤めていました。主人が「独立して葡萄を作りたい」と決めた時に、中津市の就農体験バスツアーを知り、参加しました。収穫体験や実際に就農した方のお話を聞き、「ここなら挑戦できる」と思いました。その後、地域おこし協力隊で農業部門の募集があり、実践の場として飛び込みました。

協力隊では、市内の畜産農家から集めた牛糞を使って完熟堆肥を作り、その堆肥で育てた米を『やまくに誉(ほまれ)』と名付けてブランド化する活動を始めました。『作り手が誇りを持てる農作物に』という願いを込めたそ



の米は、ふるさと納税の返礼品としても提供され、少しでも地域のPRに繋がったなら嬉しいですね。

協力隊が終わっても山国に残られた理由は？

農業公社があるからです。農業公社には20代から幅広い年代の方がいます。いろいろと親切に教えていただけるので、農作業は暑さや重労働など大変ではありますが、苦にはなりません。トラクターやホイールローダーにも初めて乗りましたし、大型特殊免許まで取りました。主人が独立して就農するなら手伝わなきゃ、というのがきっかけでしたが、今では夫婦で共に農業公社に勤めています。

山国といえば美味しい梨で有名



ですが、高齢化による担い手不足が深刻です。だからこそ、地域の方と協力して梨作りに力を入れたいと思っていますので、独立はまだまだ先になりそうです。

山国での1日の過ごし方を教えてください。

夏は朝6時に出勤して午後3時までの勤務です。支度は5分もあれば十分。朝5時に起きてご飯を食べ、5時50分には家を出ます。午前中は外作業が中心ですが、日中の暑さが厳しいので、昼からはなるべく事務作業などに切り替えています。

仕事が終わると洗濯や犬の散歩など。日常的な買い物は日田まで出かけます。山国は田舎ですが、ネット環境が整っているの、大きなテレビで映画を観たり、生活圏で買えないものは、オンラインで買い物したりと、ネットの便利さを暮らしに取り入れています。

ご近所とのお付き合いは？

この集落には8人が暮らしています。掃除やお通夜など地域の行事には、夫婦のどちらかが必ず参加します。近所付き合いって、いいんですよ。今の住まいも「持ち主が老人ホームに入るから空くけどどうする？」と声をかけてもらい、譲っていただいたものですし。棚やテーブルもすべて前の住人から引き継ぎまし



た。冬はとにかく寒くて、雪が積もるとシーンと音がなくなる世界。それもまた特別な体験ですね。

最後に、山国への移住、協力隊に入ることを検討している方へメッセージをお願いします。

山国は自然豊かで溪流も美しく、人が優しく助けてくれる町です。病院も揃っていて、田舎ながら暮らしやすい環境だと思います。

農業は向き不向きがありますが、私は楽しいと感じています。自分で作った米や梨を「美味しい」と喜んでもらえるのは大きなやりがいです。

梨で例えると、春に花を咲かせ、季節ごとの成長を見守りながら世話をし、やがて立派に育った梨が消費者のもとに届くというサイクルと、頑張った成果を実感できるのが農業の醍醐味です。高低差のある土地で育った山国の梨の味は、格別です。

移住してよかったことランキング

1位 自然豊かで他県・他市にもアクセスが良い

2位 食べ物が美味しい
米も梨も美味しいけど、梶原畜産のメンチカツが特に好き。

3位 周りの人々が優しいところ

山国地区の暮らしを支える施設

《子育て・教育》	《生活》	《医療》
●保育園 2園	●道の駅 1施設	●病院、診療所 4施設
●小学校 1校		※下記含む
●中学校 1校		●病床のある病院 1施設
		●小児科 2施設
		●歯科 1施設

山国地区のピックアップ



かかしアトリエ

稲刈りの終わった山間の静かな田んぼが「かかし」の世界に大変身します。昭和の思い出、田舎の日常風景などを織りなします。



魔林峡

静寂の中に太古の神秘を漂わせる峡谷。遊歩道と展望台もあり、遊歩道は国記念天然物「猿飛千変峽観音群」に繋がっている。



農業

山国の清らかな水と昼夜の寒暖差を活かし、米作りを中心に、梨などの特産品も栽培されている。



林業

山国地域の面積の約8割を占める森林で、スギやヒノキを中心に育林。豊かな自然環境を守り育てる。地域を支える基幹産業。